

### 第3回 広報 市民リポーター だよ

今回は、小林リポーターが米の日実行委員会を訪ね「米の日」について、野村リポーターが市役所を訪ねて、市民があまり行くことのない課などについて、それぞれリポートしました。

## 「米の日」って知ってた？

リポーター 小林 大樹 (二井田)

日本は、瑞穂みづほの国と言われ「米」を古くから栽培し、その量が国の力を決めていました。また米を食べることも豊かな証明であり、人々の希望ですらありまし

た。しかし、戦後の日本は、アメリカの小麦輸出キャンペーンや欧米文化の積極的な取り入れから、パンを食べることがあたたかも文化的であるかのような錯覚にとられ、米に対しての思いが薄れてきたように感じているのは、生産者である私だけでしょうか。

今回は米の日実行委員会を訪ね、「米の日」についてリポートしました。

今、米を取巻く現状は、相次ぐ農産物の自由化と農地の三割



小林リポーター(左)

にもおよび生産調整により、非常に厳しいものがあります。

市では、昨年「米の日」を「米の日」に制定しました。なぜ八月十八日かというと、米の字を八十八になぞった事と、米を作るには八十八回もの手間が掛かると言う意味もあって決めたそうです。

「米の日」では、国民全体が米についてのコンセンサスを得る事が大事と考え、生産者と消費者との交流の中から消費を拡大し、稲作の将来展望を模索したいとのことでした。

八月十八日は

文化会館界隈が面白い

今年の米の日は、市民文化会館を会場に元NHKニュースキャスター勝部氏をコーディネーターに、米国カリフォルニア州アジア貿易投資事務所の代表、韓国及び日本の農協中央会の代表、消費者及び生産者の代表をパネリストとして招き「国際シンポジウム」が開催されます。また、サン・アビリティーズ大館では、消費者との交流を深め

## 市役所拜見！

リポーター 野村 裕子 (川口)

市民課や税務課へは、住民票、所得証明書などをもらいに時々足を運びますが、私をはじめ市役所の中で行ったことがない課や係があると思います。

今回は市役所を訪ねて、ふだん行くことのない課をリポートしてみました。

企画調整課電算管理係

この部屋は二つに仕切られ、コンピューターなどの機械がたくさん置かれていました。市民課で受け付けされた転入・転出届、印鑑登録などがコンピューターで処理されていて、これらの記録保存している係なので、入室する際には許可が必要だそうです。

るために「稲作農業の歴史探訪」「未来の農業」「有機農業と健康コーナー」「ファーマーズマーケット」「すし喰い胃袋自慢大会」などの「米まつり」が開催されるそうです。米まつりは、午前十時から午後四時まで開催され、ミニSLも来ますのでお子様連れでどうぞとのことでした。

市民の皆さん、米の日を機会に、小さな米粒の持つ大きな意味を考えてみませんか。

監査委員事務局

事務室へ行く途中の通路は、人がやっと通れる程度で壁がはげ、薄暗い感じ。急な傾斜の階段を登ると、木の床の明るい部屋が監査委員事務局でした。

ここでは、毎月の市の収入・支出の検査や各課の予算執行の手続き及び決算の審査などを行っているとのことでした。私が伺ったときは、決算の審査をしていて、手を休める暇もなく支出された伝票の点検をしていました。

選挙管理委員会・管財課

選挙管理委員会では、国の選挙日が決まらないことが、準備などの都合もあり一番困ること



野村リポーター(右)

だと聞きました。また選挙日は、国の選挙の場合には中央選挙管理会が、県、市の選挙の場合には公職選挙法で定められた期間内にそれぞれの選挙管理委員会が決めるということ。この外に、財産区議会議員選挙、土地改良区総代選挙、農業委員選挙など、私たちが知らない選挙もあるとのことでした。

管財課は、市の土地や建物の管理や処分、賃借、地籍調査などの仕事をしています。このため、机に座って仕事をしているだけではなく、直接土地や建物を調べに行くことも度々あるとのことでした。

市役所の中を回り、通路にはキャビネットやロッカーがびっしり並んでいて狭いと思いがながら歩きました。また、女性の課長がいてもいいのになあと感じつつ、日頃市民の目につかない市役所を拜見しました。

◇広報市民リポーターだよりは、毎月1日号で、6人のリポーターが独自に取材した記事を掲載します。